

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2023 年度
氏名	西山 幸花	指導教員 (主査)	笹川 智子准教授

論文題目	養育者の情動表現スタイルと対処方略が青年期の精神的健康に及ぼす影響
------	-----------------------------------

本文概要

【問題と目的】 養育者が子どもに与える影響として、愛着という視点から多くの研究が行われている。愛着の形成は、養育者と子どもの間で行われる双方向性のプロセスであり、情動表現に対する反応の仕方がその形成に影響を与えることが示されている(Hsiao et al., 2015)。近年では、非言語的および言語表現を示す際の永続的なパターンまたはスタイルとして情動表現スタイル (Emotional Expressiveness: EE) の研究が行われており (Halberstadt et al., 1995)、子どもの自己コントロールや感情調整の大きな規定因となることが知られている (田中, 2009)。また、養育者の EE が子どものストレスとなり、精神的健康に悪影響を及ぼすことが明らかにされている (Chiang et al., 2023)。小林・安藤 (2023) は、養育者から否定的情動を向けられ続けることで、気持ちを抑え込むなどの非適応的な対処を行いやすくなることを明らかにしている。このことから、養育者の EE が子どもの対処方略にも影響を及ぼすことが考えられる。対処方略には複数の種類があるが、それぞれが精神的健康に与える影響や効果の程度は異なり (尾関他, 1994)、当該のストレスが対処可能なものであるか否かなど、対処を行う状況によっても精神的健康への影響が異なることが明らかにされている (Bolger, 1990)。そこで、本研究では、養育者の EE に焦点を当て、青年期の子どもが養育者の EE に対して用いやすい対処方略と、その対処方略の個人差が精神的健康に与える影響を検討する。

【方法】 都内の専門学生・短期大学生・大学生・大学院生 379 名 (男性 119 名、女性 255 名、その他 5 名、平均年齢=20.19, $SD=1.36$) を対象に、質問紙配布による無記名式のアンケート調査を集団で行った。所要時間は 15 分程度であった。調査材料は①フェイスシート (年齢、性別、学年、主な養育者、同居の有無)、②母親の情動表現スタイル尺度 (SEFQ; 田中, 2009)、③Tri-axial Coping Scale 24 items version (TAC-24; 神村他, 1995)、④Depression-Anxiety-Stress Scales (DASS-21) 日本語版 (原, 2016) を用いた。ただし、②と③では主な養育者の情動表現スタイルと、その対処について尋ねた。本調査への参加は自由意思であり、回答を拒否しても不利益が生じず、得られた情報は統計的に処理され、研究以外では使用されないことを口頭および書面にて説明し、同意を得られた者に回答を求めた。

【結果と考察】 養育者の EE による違いを検討するために、親和的な EE・否定的な EE の得点の高低によって、どちらの EE も低い群 (LL 群)、否定的な EE のみ高い群 (LH 群)、親和的な EE のみ高い群 (HL 群)、どちらの EE も高い群 (HH 群) の 4 群に類型化した。各群における対処方略の使用傾向を明らかにするために、養育者の EE の 4 群を独立変数、対処方略を従属変数とする一要因分散分析を行った。加えて、対処方略と精神的健康の関連性を比較するため、4 群を母集団とし、8 つの対処方略から DASS-21 の 3 因子に対する影響を仮定した因果モデルに基づき、多母集団同時分析を行った。その結果、LL 群では、「計画立案」や「責任転嫁」が精神的健康に負の効果があることが示され、「気晴らし」が対処として有効である可能性が示された。LH 群では、「情報収集」が精神的健康に負の効果、「肯定的解釈」が正の効果があることが示唆された。また、「放棄・諦め」の使用傾向が高いことが示された。HL 群では、「肯定的解釈」のような建設的な対処方略を使用できることが明らかとなった。HH 群では、「情報収集」が精神的健康に負の効果を示し、「放棄・諦め」と「気晴らし」に正の効果があることが示された。

以上のことから、子どもは養育者の肯定的な情動的関わりにより、感情表出に対するポジティブな対処方略を獲得しやすくなることが示された。一方で、否定的な情動的関わりが多いことは、建設的な対処方略の獲得を阻害し、その状態が青年期まで維持されることが示唆された。本研究の結果を踏まえ、子ども自身が養育者の情動表現スタイルを認識することによって、適切な対処を行えるようになることが期待される。